

事業番号

0179

平成23年行政事業レビューシート

(文部科学省)

事業名	交流協会	担当部局庁	高等教育局	作成責任者				
事業開始・終了(予定)年度	昭和47年度	担当課室	学生・留学生課留学生交流室	学生・留学生課長 松尾 泰樹				
会計区分	一般会計	施策名	XⅢ-1 国際交流の推進					
根拠法令 (具体的な条項も記載)	—	関係する計画、通知等	—					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	1972年9月の日中国交正常化に伴い、我が国は台湾と断交したが、外交を除く従来の関係を維持するための民間レベルの交流団体として、(財)交流協会が設立された。この交流協会を通じた、台湾からの留学生に対する奨学援助を目的とする。 【学位取得学生(大学院レベル)】 昭和47年の日台国交断交後における、それまでの台湾留学生に対する日本国費留学生制度を引き継ぐ事業として、日本の大学院等において研究指導を受けようとする台湾からの留学生に対し、支援を行うことにより、教育・学術・文化の交流を図る。 【短期留学生(平成20年度から実施)】 台湾の大学が、日本の大学と学生交流に関する協定等を締結し、それに基づき、短期に留学生を日本の大学に派遣する際、当該台湾人留学生を支援することにより、日台間留学生交流の一層の拡充を図り、相互の教育・研究水準の向上に資するとともに、相互理解と友好親善を増進する。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	日本の大学で研究指導を受けている若しくは受けようとする台湾からの長期留学生、及び、留学期間が3年以上1年未満の短期留学生に対し、(財)交流協会を通じて奨学金等の援助を行う。(定額補助)							
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 業務委託等 ☒ 補助 ☐ 貸付 ☐ その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	651	692	674	606	618	
		補正予算	—	—	—	—		
		繰越し等	—	—	—	—		
		計	651	692	674	606	618	
	執行額		651	665	674			
	執行率(%)		100.0%	96.1%	100.0%			
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標		成果実績	単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)
	台湾からの優れた人材を我が国の高等教育機関で受け入れることにより、国際交流に貢献するとともに、将来を担う人材の育成に資するものであり、定量的な成果目標の設定にはそぐわない。							
			達成度	%				
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標		活動実績 (当初見込み)	単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	台湾からの受入れ留学生数に対する奨学金等支給者数(①長期②短期)			人	①230 ②41	①249 ②92	①249 ②79 (①251②80)	(①229②80)
単位当たりコスト	1,910(千円/人)		算出根拠	H22年度執行額(674,340千円)/受入れ留学生数(353人)				
平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	奨学金等	600百万円	612百万円	※奨学金等支給人数の増				
	渡日及び帰国旅費	6百万円	6百万円					
	計	606百万円	618百万円					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか	
	—	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	・本事業により、財団法人交流協会を通じて、台湾からの留学生に対する奨学援助を行い、平成22年度においては350名を超える留学生に奨学金等を支給しており、留学生を通じた台湾との国際交流が進んでいる。 ・しかしながら、元奨学金留学生の継続的なフォローアップの実施が課題であり、大学や交流協会と連携・強化を図ることが必要である。 ・経費の執行に関しては、事業年度毎に財団法人交流協会から提出される実績報告書等において、支出先・使途を把握し、補助金の使用状況や事業目的との整合性について確認を行っている。 ・平成23年度においては、過去の執行実績や財団法人交流協会の自己経費の増等により、予算規模を減額している。		
予算監視・効率化チームの所見			
現状通り	1. 事業評価の観点：この事業は、台湾との断交により、民間レベルの交流団体として設立された(財)交流協会に対する台湾からの留学生に対する奨学援助を目的とした補助事業であり、予算措置手法・実施体制の観点から検証を行う。 2. 所見：この事業は、(財)交流協会でしか行えない事業であり、奨学金受給者に係る必要額を適正に算出しつつ、現行の予算規模を維持すべきである。		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
-			
補記（過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			

資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単位:
百万円)

文部科学省
674百万円

(財)交流協会が行う外国人留学生に対する支援事業に必要な経費を補助。

【補助】

A. (財)交流協会
674百万円

台湾からの留学生に対する奨学援助の事業を実施。

【奨学金等】

B. 学生(全353名)
674百万円

台湾からの留学生に対して奨学金等を支給。

費目・使途 (「資金の流れ」 においてブロックごとに最大の 金額が支出されている者につい て記載する。費 目と使途の双方 で実情が分かる ように記載)	A.(財)交流協会			E.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	事業費	奨学金	510			
		授業料	152			
		留学準備金	6			
		渡日及び帰国旅費	6			
	計		674	計		0
	B.学生A			F.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	奨学金	奨学金	2			
	授業料	授業料の支払	1			
	計		3	計		0
	C.			G.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	計		0	計		0
	D.			H.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

※補助事業

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)交流協会	台湾からの留学生に対する奨学金等の支給	674	-	-

B.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	学生A	奨学金等の援助	3	-	-
2	学生B	奨学金等の援助	3	-	-
3	学生C	奨学金等の援助	3	-	-
4	学生D	奨学金等の援助	3	-	-
5	学生E	奨学金等の援助	3	-	-
6	学生F	奨学金等の援助	3	-	-
7	学生G	奨学金等の援助	3	-	-
8	学生H	奨学金等の援助	3	-	-
9	学生I	奨学金等の援助	3	-	-
10	学生J	奨学金等の援助	3	-	-